

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2691800136		
法人名	社会福祉法人 京都眞性福祉会		
事業所名	グループホーム あんずの里 南館 (ひまわり)		
所在地	綾部市高津町遠所1番621		
自己評価作成日	平成28年2月19日	評価結果市町村受理日	平成28年5月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku_ip/26/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosvoCd=2691800136-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku_ip/26/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosvoCd=2691800136-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会
所在地	〒600-8127 京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル梅浜町83番地1「ひと・まち交流館京都」1F
訪問調査日	平成28年3月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設理念であるその人らしく生き生きと暮らし続ける力を地域とともに支えますとあるように、1人1人の生活をされてきた地元で暮らし続けていけるように、ご本人の気持ちに寄り添いながら、どうしたらいつまでも生き生きとここで暮らし続けられるか、一緒に考えていきたいとおもいます。春には桜が咲き、夏には花火も見れる高台です、また秋には山々の紅葉の感じられ、冬には雪景色も見られます。四季を感じながら、できるだけ現在の機能を維持できるように働き掛けを行っていきます。地域との交流も高津町中心にしていきたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設一年目の事業所ですが、同法人の特別養護老人ホームやグループホームに併設している事で、地域・行政・医療機関との連携・法人の各種委員会組織による研修体系・書面やGHの運用システムを共有しています。GHとしての役割を担う理念の実現に向けて、身体的機能や認知症が進まずにその人らしい生活が出来る、元気を維持していける支援を目指しています。家族会の設立を眺望し敬老会に家族を招待して家族の交流を持ち意見を交換する等独自の取り組みも始めています。利用者のニコニコしながら朝の体操を長時間されている姿や、職員の生き生きとした姿もみられるなど、今後に期待されます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念「その人らしく生き生きと暮らし続ける力を地域とともに支えます」グループホームユニット玄関に提示したり、ユニット会議の開始時に唱和している。また、ケアの場面でも振り返りその人らしく生活してもらえるかかわりをしているか？話すこともある。後野	同法人グループホーム北館(平成24年4月開設)の理念を継承し、ひとり一人の人生を大切に地域と共に支えていく方向性を持ち、身体的機能の衰えや認知症が進まずにその人らしい生活が出来る元気を維持していける支援を目指している。	事業所自体の歩むべき具体的な方針や目標を掲げて利用者の人生そのものに寄り添った実践的な取り組みが求められる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設法人が地元の自治会に加入しており回覧物の共有や自治会や老人会の行事に参加させてもらうことも多い。また、老人会の施設見学や交流も行った。	開設時の見学会では地元で回覧板で周知したり、地域包括センターに案内をして見学者があり、老人会の行事では施設見学や交流会に来て貰った。地域の地藏盆や納涼会の盆踊りに利用者も参加したり、文化祭にユニット毎で作った作品を出展し、見学に出掛ける等北館に関わる地域の関係者との交流を継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議時に自治会長さんや老人クラブの会長さんより、こういう人がいるが、入所状況は？どうかの相談があった。老人会の方との交流時に認知症の方とのかかわり方の話やグループホームでの生活など話をした。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議のメンバーさんより、もっと同法人内のグループホームでの交流をした方が良いと助言をください。まだ開所して間もなかったため、なかなか実現できなかったが12月に行うことができた。	会議は自治会長・老人クラブ会長・民生委員・行政・家族・利用者のメンバーで構成し、北館と一緒に開催している。利用者状況や活動状況を報告、意見交換を行っている。出された意見は検討してサービスに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議では、綾部市の高齢者介護課の方、包括支援センターの職員などメンバーに入ってもらい情報共有を行っている。また、綾部市の高齢者介護課の松原氏とは相談などわからないことや確認など行うことが多い。	市の担当課の職員は運営推進会議のメンバーで事業所の状況は知って貰っている。市役所には更新申請や相談等で出かけた。電話でも相談する等協力関係が築けている。行政主催の各種連絡会や研修にも参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内に身体拘束委員会が設置しており、身体拘束廃止に向けての研修会を定期的に行っている。	身体拘束委員会の研修や「身体拘束ゼロの手引」を回覧し職員の意識づけをしている。やむを得ず約2カ月の間夜間だけセンサーマットを使用したケースは、家族も含めたサービス担当者会議を開催し職員の意識づけをする事で、センサーマットが外せ見守りで対応をしている。	

京都府 グループホーム あんずの里 南館 (ひまわり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については管理者は京都府が行った研修に参加した。また、施設内では虐待マニュアルを周知徹底するように全員に詳細をまとめた研修に参加した。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	新しい職員も多く、なかなか学習の機会が持てないが、利用者で成年後見制度の利用をされた方がおられ、それについて学習を行う機会があった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、十分時間をとるようにしており、契約書、重要事項などの説明を行った後に、施設内の見学をもらい、質問や不安などを訪ねていただけるような雰囲気作りを心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の出席や老人会の家族懇談会をしてもらった時にご意見をいただきました。また、意見箱も玄関に設置していますが、現在のところ入っていません。	家族アンケートを実施。敬老会への家族参加を呼び掛け、家族の交流会の中で意見を聴きとっている。外に出る機会を増やして欲しいという声を聴き、散歩や外出に行った時の様子を面会時に写真で見て貰ったり、家族に毎月のお便りで知らせる等、生活の様子が分かる様にしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回のグループホーム会議には会議担当者が事前に全員から意見を聞くようにしており、その意見をレジメにまとめ話し合いを行い、反映できていると思います。	毎月会議を開催。当番が事前に職員の意見を収集してレジメを作る等、有効となる会議を工夫している。早出職員の退勤時間について話し合い、業務内容の見直しをする事で改善に繋がっている。管理者は会議録を施設運営中枢会議に報告し審議して貰う仕組みがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人で年2回の執務考課を実地し、職員1人1人が振り返りの機会となり、直属の上司が評価をして法人代表まで段階的に評価を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホームでの特色の説明を話、認知症の対応や介護とはなど話す機会を持つようにしている。また、施設内での研修や外部での研修に行き自分のスキルアップを行うように声掛けを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	綾部市の多職種連携在宅医療推進研修会など他施設の職員とともにテーマに沿って学ぶ研修会に参加したり、できるだけ横のつながりを大事にしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時にご本人に面接させてもらい思いを聞くようにしました。その後はあえて面接はせず、生活の場面で要望を聞くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時、契約時、入所時に困っていることや不安なことや家族の思いなど、話を聞いた上で施設での対応など話すようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所までの各段階で必要な援助ができるように家族、本人より情報収集を行い、入所時に必要な支援を検討し提示し援助している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で能力を見極め、生活の場面では昔ながらに行っておられたことが多いので教えてもらう場面などを増やし、指示的な態度はせずに一緒に行うようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人だけでなく家族も支援の対象としていつでも相談できる関係作りを目指し、面会時には担当者中心に話をして信頼関係を築いていくようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族への聞き取りを行い、馴染みの関係の人、場所など可能な限り交流してもらったり、利用してもらえることを家族には話している。また、施設での対応も可能なことを話している。	入所時の面接で家族から利用者の生活歴を聞いた事を活かしている。奥さんの入院先まで会いに行ったり、住んでいた家の近くへ行き馴染みの喫茶店でコーヒーを飲んで来た。友人や近所の方が逢いに来られている方もあり、今後は利用者からも馴染みの関係の発掘に力を入れていく予定である。	理念に掲げるテーマに基づいた取り組みを展開し職員の更なる意識づけとセンター方式による支援マップの活用を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活の中で利用者同士の関係を見だし、心地よい関係作りを行えるように声掛けや工夫を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所にて契約が終了しても、相談できることを退所時に伝えており、他サービス利用時にも情報提供を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当者、計画作成者を中心にアセスメントを行い、本人の思いにより添えているのか検討を行っている。	思いや意向の把握に努めているが、経過記録は利用者の身体的な事や実施した事の記入であって、思いや表情、利用者からの「気づき」に関する記録は少なく、思いを読み取るまでは至っていない。	経過記録に利用者の身体的な事や計画に添ってした事は記入されているが、利用者の事を十分に知る為に生活の中での表情や思いも記録に残し、思いに寄り添ったケアが出来るかのカンファレンスをされる事を期待する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に聞くなどして情報収集を行い初回アセスメントシートにまとめ、職員で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体精神状況などの把握を行い、生活の中でうまく機能することができているなど、評価するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者、計画作成者が中心となり、本人のケアのあり方について職員同士で話す機会を持つように努力している。	入所前面接用紙に記入した事やセンター方式の様式を使い聞きとった事を記入したり、家族に記入して貰っている。入所時に初回担当者会議を行い介護計画を作成している。1ヶ月毎に担当者がモニタリングを行いグループホーム会議と朝の申し送り時に利用者の支援方法を話し合いサービス担当者会議記録で残し、容態変化時や更新時には介護計画の見直しをしている。再アセスメントはアセスメント用紙に新たに記入している。	介護計画見直しの前のサービス担当者会議は家族・利用者・関係者の意見を取り入れて行い、ケアプランに反映させ定期的な見直しを望みたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間通して行動等の記録や経過記録に日々の様子を記録するようにしており、気づきや計画に沿った対応ができているか評価している。		

京都府 グループホーム あんずの里 南館（ひまわり）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々々のニーズにその都度柔軟な対応ができる様に職員間で情報の共有やケアの統一を行うよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での交流ができるように運営推進会議での情報共有や自治会の回覧などで情報を得ようとしている。本人の能力に応じて参加してもらうようになっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に本人、家族と話をし、継続してかかりつけ医に診てもらい、施設医師に診てもらいなど選択してもらっている。	かかりつけ医は入所時に説明をして利用者・家族に選んで貰っている。継続受診される方は家族が同行し、サマリーを渡す等情報提供をしている。施設医は月1回の往診があり、変化のあった時は家族に伝えている。在宅時の歯科医の往診や認知症外来には職員も同行している。24時間看護師が対応し施設医と連携している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の中で本人の身体状況や気づきなどを看護職員に伝えるように情報共有に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の地域連携室の相談員と常に情報共有を行い、入院時に声掛けを行い、退院までの間定期的に連絡し、必要に応じてカンファレンスを依頼したり面会に行き情報収集を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについて、契約時にも意向や施設でできることを話すようにしている。	契約時に「重度化した場合の対応に関わる指針」に添って、利用者・家族の思いを聴き、事業所で出来る事を説明している。容態変化時に「最期を迎えるのは何処が良いのか」を家族から本人に聞いて貰っている。この1年、事業所での看取りを希望された方も、吸引が必要だったり、食べ物が摂取出来ずに入院されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応について、連絡方法や対応をすぐに見えるように掲示している。急変時の対応についても入職時や消防署の研修などに参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練も年に数回行っており、職員も交代で参加している。	併設事業所全体で消防署立会いの基年2回の訓練を行い防災委員会でも年5回避難訓練を行っている。利用者の参加はない。自然災害は事業所が高台にあるので、地震・山崩れが想定されるが、訓練は出来ていなかった。特養で災害時に備えて、備蓄をしている。	グループホーム独自で利用者も含めた訓練の実施が望まれる。想定される自然災害への対応や訓練の実施も検討されては如何でしょう。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の思いや人格や誇りを大切し傷つけないような対応を目指している。職員どおしでの情報共有をしてより良い対応できるようにしている。	接遇委員会の研修を受け全職員で共有を図るよう努めている。職員は施設の顔とし、身だしなみや言葉遣いに気を付けている。利用者の大切に思っている事を優先し、大切にされている事を意識して貰えるようにしている。居室の鍵を掛けられる方は尊重している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	担当者を中心に生活の中で本人の意向や思いを聞けるように、また自己決定できるよう声掛けを行うように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調面にも配慮しながら、過ごし方を考え、利用者と一緒に考えることもある。個別に対応したり、何人かのグループに分けて活動してもらうこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、入浴時にご本人に着たい服を選んでもらうようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その人に合ったお手伝いの内容を考えて、声掛けを行ってもらっている。また、週に1回程度は手作りおやつを一緒に作ったり、旬の野菜をもらったり、購入して昼食、夕食の1品にするように一緒に調理している。できない方には味見に参加してもらっている。	食事は併設の特別養護老人ホームのキッチンから運ばれ、利用者と一緒に盛り付けや配膳・翌日分の野菜の下処理をしている。野菜を貰った時は利用者と一緒に作り一品料理として追加している。おやつのおよみを聞き誕生日に取り入れたり、週1回おやつを一緒に作り楽しんでいる。外出行事の時に回転寿司やうどん屋に行く事もある。	3食のうち1食でも一緒に作る事を考えて行かれたら如何でしょう。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	24時間経過記録表を利用し、食事、水分摂取の記録を行い、各勤務ごとにチェックを行い、少ない時には声掛けや医師に報告するようにしている。食事の工夫や飲み物の工夫など考えている。嚥下力も観察し食事の工夫をしている。		

京都府 グループホーム あんずの里 南館 (ひまわり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行っている。自分で行える方は、時々口腔内の様子を観察するようにしている。義歯の方は居室まで行き、見守りを行事が多い。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間経過記録表を利用し排泄パターンや回数をチェックしている。入浴時の下着の汚染状況の観察を行い、職員間で情報共有するようにしている。	24時間経過記録で排泄の習慣やパターンを掴み、紙おむつやリハビリパンツの方もトイレでの排泄が出来るように誘導している。自立に向けた支援では、パンツの汚染がみられる方も不快感が残らない様に担当者会議で話しこまめに検討工夫をする事で、布パンツで清潔に過ごせている方がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	24時間経過記録表を利用し排便についても記録を行っているが、排泄時、自分で流される方もあり把握が難しい方もある。食物繊維を使用したり、散歩に出かけるようしたり、医師の指示により緩下剤服薬など注意を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	3日に1回入浴の予定を入れているが、その日の体調や気分に合わせて声掛けをしても入られない場合は無理せず次回に回すようにしている。	午後1時～3時半の間に週2～3回、個浴とリフト浴で一人ひとりに合わせてゆったりと楽しめている。入浴拒否の方は成功体験を職員間で伝え合い、信頼関係を得る事で入れるようになっている。季節湯の柚子湯もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人の生活習慣の把握を行い、就寝時間も決定せずお話しをしていることもある。リズムを崩すことも考えられるので声掛けをしたり、ゆったりした時間を持つようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のファイルを作成し、1人1人服薬している薬の情報を入れている。薬の変更時には、ご本人に説明を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の思いや生活歴の把握を行い、得意なこと、苦手なことなど考えて、能力に応じた役割をお願いできるように工夫している。		



京都府 グループホーム あんずの里 南館 (ひまわり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候を見て、天気の良い時には散歩に出かけたり、買い物に出かけたりしている。ご本人の行きたい場所などを聞き出し、行事に取り入れたり、ご家族に相談するように考えている。誕生日には本人のやりたい事を実現できるように援助している。	気候の良い時には周辺の散歩でコスモス畑や花畑・石を拾ったり、屋上からの眺望を楽しんでいる。誕生日には特別外出支援を家族の協力も得ながら組みだし自宅周辺を家族と見に行っている方もあるが、継続した取り組みにはなっていないので、今後は「支援活動の継続」を計画に入れられている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	行事の時や買い物などの外出時に一緒に出掛け支払いをお願いすることもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っておられる方は自由にかけられる。また、希望あれば、ご家族に連絡しかわるようにしている。また、正月にはご家族に宛てて年賀状を書いてもらった。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の環境整備やリビングなどの掃除、整理整頓に心がけている。換気や冬場には加湿を心がけている。季節感を出すように日々の中でユニットの飾りつけを行っている。	事業所は新築1年目で十分な光彩、広さが確保されている。利用者の動きを考えて、机3台の配置をその時々で変えている。窓際にソファを置いて寛げる場所にしたり、利用者が親しんできたひな飾りを飾っている。食事・レクリエーション・体操時はテレビを止めメリハリのある生活環境づくりに努めている。玄関には桃の花や利用者手作りのお雛様を飾って季節感が感じられる。清掃も利用者と一緒にいき、トイレは毎晩職員が行っている。週3回業者が入り清潔が保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者どおしの相性を配慮し、心地よい関係性を重視した席の準備など考えている。また、テレビの好きな方や話の好きな方など、空間の配慮を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に家で使用されていたタンスや嗜好品などを持参を依頼して、居室が心地よい雰囲気になるように声掛けを行っている。	馴染みの箆笥・仏壇・整理棚・小物棚・テレビ等を持って来ている。家族が箆笥の上に羽子板・ひな人形など季節の飾り付けをしている人や、仏壇を持って来て法事を行い家族も来られる等、個々に合わせた生活をされている。設えは家族と利用者が行っている。安全面で家族にアドバイスをしている時もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人1人の身体状況や認知症自立度の把握を行い、職員での共有を行い、できるだけご本人にとって安全で自立した生活がどうしたらできるかを考えながら援助している。		